



地域枠学生を対象とした夏季地域実習による医学部カリキュラムの補完について

山野貴司^{1),2)}、北野尚美¹⁾、上野雅巳^{1),2)}、松本政信³⁾、永井尚子³⁾、雑賀博子³⁾
土生川洋³⁾、池田和功³⁾、和田安彦³⁾、形部裕昭³⁾、宮下和久⁴⁾

1)和歌山県立医大地域医療支援センター、2) 和歌山県地域医療支援センター

3)和歌山県保健所長会、4)和歌山県立医科大学

【目的】和歌山県立医科大学の地域枠には県民医療枠と地域医療枠があり、定員の約30%を占める。県民医療枠は卒業後9年間の4年間を地域医療に携わるとともに、最終的に国際的な医療・医学のリーダーとして活躍する医師になる必要がある。地域医療枠は卒業後9年間の5年間、県内のへき地拠点病院等に勤務し、その地域でプライマリヘルスケアを実践する医師及び研究者になる必要がある。しかしながら、医学部カリキュラムの中に保健所実習がなく、卒業後に地域でのプライマリヘルスケアを実践する保健所研修も必須ではない。そこで、地域医療枠1～5年生を対象に企画された事業である夏季地域実習を学生主体の参加型に変革し、医学部カリキュラムを補完する地域医療教育と位置付ける目的をもたせた。

【方法】2017年、医学部1～3年生は1日間の保健所実習を、4,5年生は主にへき地医療拠点病院・診療所実習を2日間設定した。地域医療を担う医師を育成することが目的のひとつである自治医科大学の夏季実習に準じ、訪問先との事前調整を学生自らがを行い、さらに移動は公共交通機関のみに変更し、実習終了後に規定の様式に沿った実習報告書の作成を義務化した。【結果】保健所実習は和歌山県内5保健所で実施し、対象者の57%(12/21)が参加した。各保健所の多大な尽力の元、臨床医学に接する前に、地域で実際の予防医学や公衆衛生に接する貴重な機会を得た。病院診療所実習は県内11施設で実施し、対象者の94%(16/17)が参加した。公共交通機関の移動など地域のもつ問題に直面したことで、これまでよりも学生に積極性が観察され、参加者全員が実習報告書作成を期限内に完遂させた。地域医療支援センターは、実習報告書を冊子にまとめることで成果を可視化した。尚、今年度は1,2年生が県内保健所実習、3,4年生は県内病院診療所実習、そして5年生には自治医科大学卒業生の協力の元、県外病院実習を行う予定で、対象者全員が参加の意志を表明し具体的に実習先を決定できた。

【結論】地域医療支援センター事業の地域医療枠対象夏季地域実習を、医学部カリキュラムを補完する地域医療教育と位置付けた。医学教育における位置づけを明確にしたことで、学生の事業参加の姿勢に変化を認めた。とりわけ、保健所実習は地域医療枠学生が初めて地域に出る機会となった。

背景

●和歌山県立医科大学の地域枠（地域医療枠、県民医療枠）

地域医療枠（募集人員10名）

プライマリ・ケアを実践し、高い総合的診療能力を有する医師及び医学研究者を育てます。和歌山県から修学資金（※）が貸与される募集枠で、卒業後9年間のうち、5年間はへき地医療拠点病院等を中心に研修を行います。

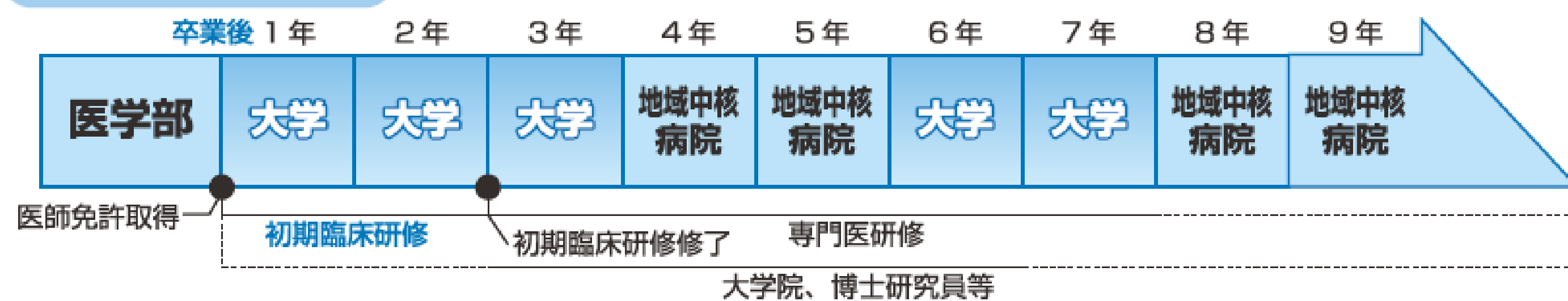
基本モデルコース



県民医療枠（募集人員20名）

和歌山県の地域医療に携わるとともに、国際的にも医療・医学のリーダーとして活躍できる人材を育てます。卒業後9年間のうち4年間は、地域の中核的役割を果たす県内公的病院で研修を行います。

基本モデルコース



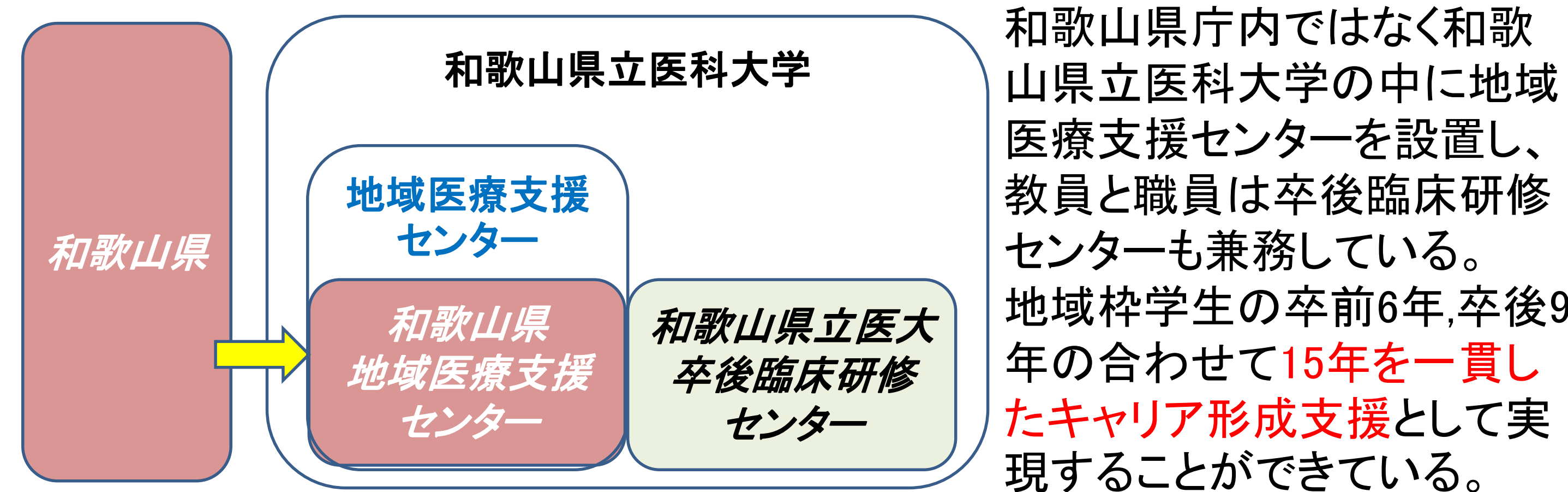
（和歌山県地域医療支援センターパンフレットより抜粋）

和歌山県立医科大学地域医療枠は卒業後9年間の5年間、県内のへき地拠点病院等に勤務し、その地域でプライマリヘルスケアを実践する医師及び研究者になる必要がある。

地域医療支援センターの目的と役割

- ★都道府県が責任をもって医師の地域偏在の解消に取り組むコントロールタワーの確立
- ★地域医療枠や地域医療支援センター自らが確保した医師などを活用しながら、キャリア形成支援と一体的に、地域医師不足病院の医師確保を支援
- ★専任の実働部隊として、喫緊の課題である医師の地域偏在解消に取り組む（厚生労働省ホームページより抜粋）

●和歌山県における地域医療支援センターの組織図、役割



●和歌山県立医科大学医学部カリキュラムの問題点として、保健所実習の設定がなく、地域医療学に関しても6年間の在学中に12単限の講義しかない。また、卒業後に地域でのプライマリヘルスケアを実践する保健所研修も必須ではない。

目的

✓和歌山県内でプライマリヘルスケアを実践する医師になる必要がある和歌山県立医大地域医療枠学生に対し、夏季地域実習を、社会性を養うための参加型実習に変革するとともに、医学部カリキュラムを補完する地域医療教育と位置付ける。

✓2016年以前

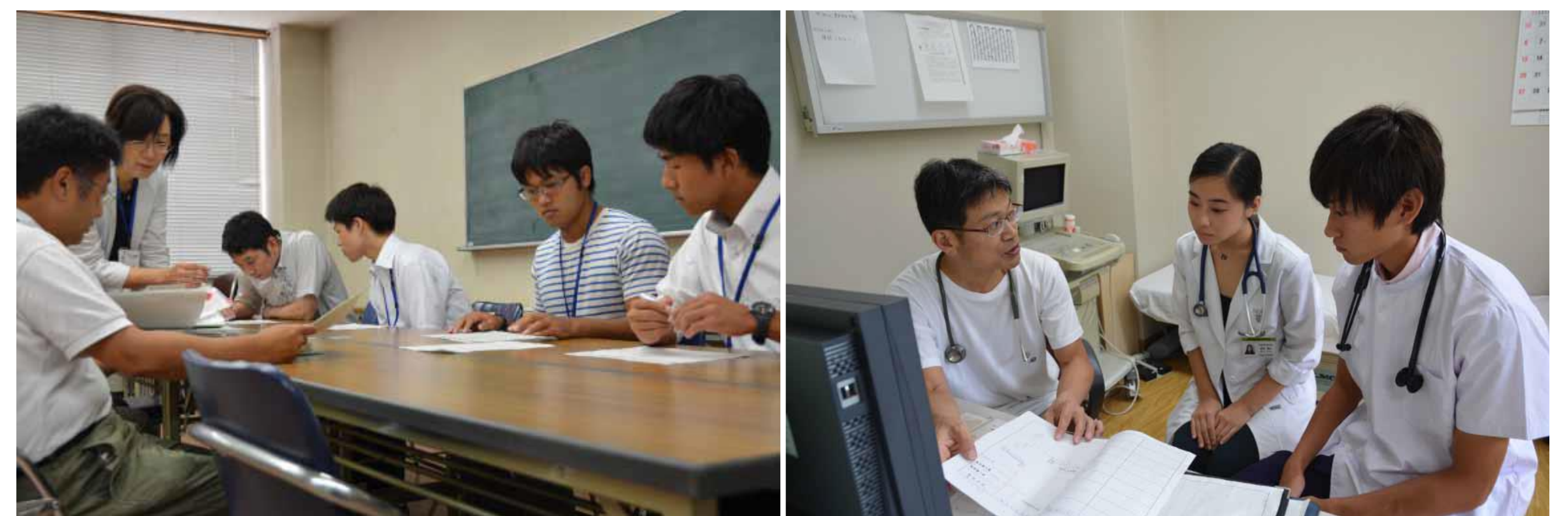
2011年より2016年まで地域医療枠学生を対象に、毎年夏期休業日に以下のような夏季実習を実施していた。
・1～3年生 集団県内病院見学(1日間)
・4,5年生 県内病院診療所実習(2日間)
移動は借り上げバスで、事前準備やレポート作成は行わず、当日まで実習内容を理解していなかった。2016年までは事務側が企画した受け身の实習内容であったため、2017年及び2018年は以下のように実習内容を変更した。

✓2017年夏季実習変更点

地域医療を担う医師を育成することが目的のひとつである自治医科大学のカリキュラムに準じ、以下の内容で変更した。
1. 臨床経験の浅い1～3年生は、大人数で病院見学をする内容から、地域保健を学ぶため、**少人数(2～4人)での保健所実習(1日間)**に変更する。
2. 4,5年生の病院診療所実習(2日間)は、**自分で病院や診療所に電話連絡**をして訪問先との事前調整を行い、実習内容を事前に把握し、自主的に行動するように促す。
3. 移動は貸バスを手配せず、すべて**公共交通機関のみ**で行う。
4. 既定の内容(施設概要、実習内容、考察、謝辞の4項目)に沿った**実習報告書**、各関係部署へのお礼状を作成する。

✓2018年夏季実習変更点

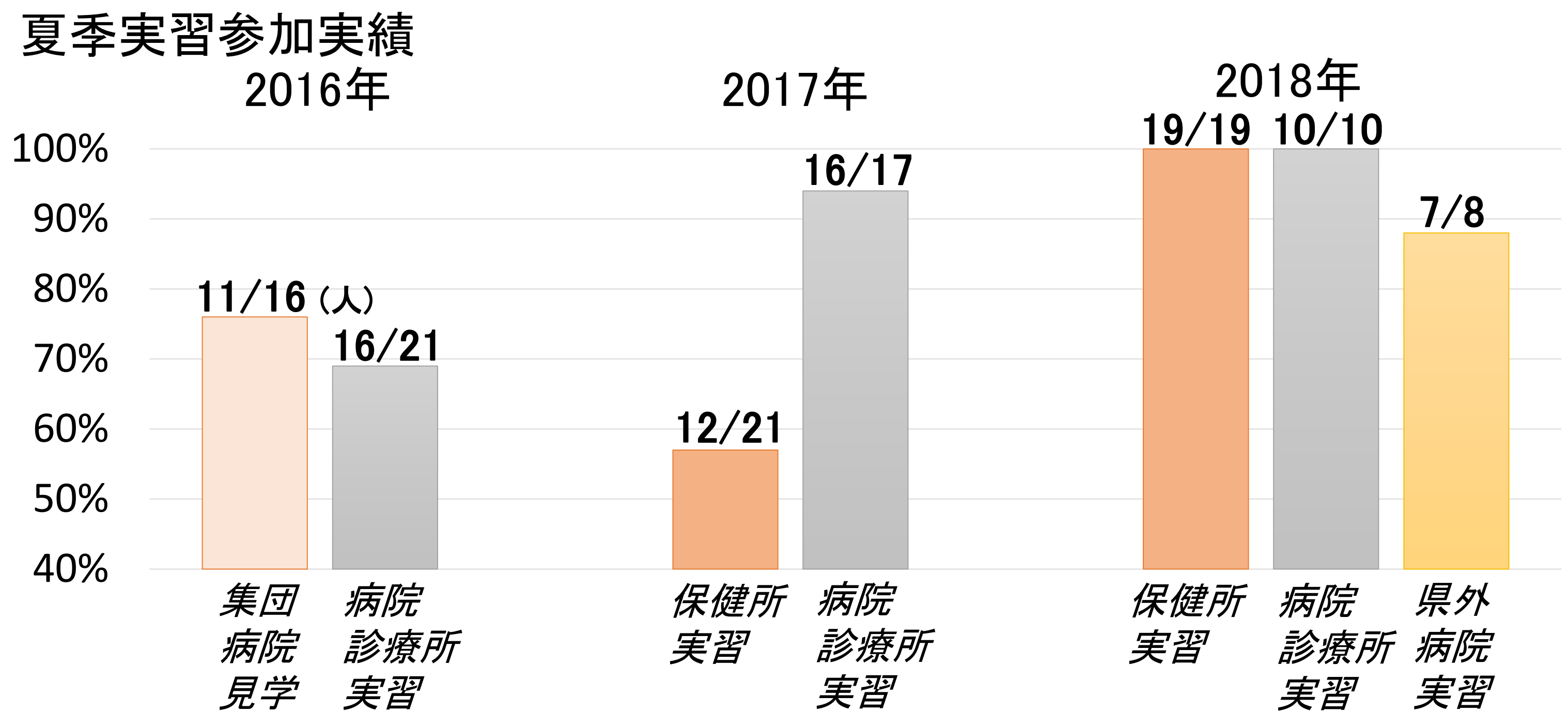
2017年の実習変更に加えて、以下の2点を変更した。
1. **県外実習の実施**
・1,2年生 保健所実習 (1日間:和歌山市、岩出、湯浅、御坊、田辺、新宮、橋本保健所)
・3,4年生 県内診療所病院実習 (2日間:和歌山県内7病院、診療所)
・5年生 県外病院実習 (3日間:自治医科大学、山口県豊田中央病院)
2. 今までは日程を8月中旬と固定していたが、学生のカリキュラムや課外活動を考慮し、**複数の選択肢**を用意して、学生自身が行先や日程を決定する。
・1,2年生 保健所実習 7月24日、26日、31日の中から選択
・3,4年生 県内診療所病院実習 8月8,9日、16,17日、23,24日の中から選択
・5年生 県外病院実習 各学生が病院に直接連絡をとり任意の3日間で行う



保健所実習

病院診療所実習

結果



2017年以降の参加学生は全員が、実習終了後に報告書とお礼状を完成させた。地域医療支援センターは各学生が作成した実習報告書を冊子にまとめ、学生の活動を可視化させて施設の担当医師にフィードバックするとともに、彼らの業績として位置付けた。



結論

✓地域医療支援センター事業の地域医療枠対象夏季地域実習を、医学部カリキュラムを補完する地域医療教育と位置付けた。
✓医学教育における位置づけを明確にしたことで、学生の実習への参加の姿勢や参加率に変化を認めた。
✓地域医療枠学生全員が参加することで、保健所実習は地域医療枠学生が初めて地域に出る機会になり、今後の地域医療教育の在り方を提示することができた。